

# ヘンリー・フォンダー とバラ



黄色いバラに魅せられた  
二人の男

みのすけ



珍しいバラが丁寧に育てられている植物園は写真を撮るには最高だ。  
私は真赤なバラを赤の色飽和を押さえるのに苦労しながら撮っていた。  
左肩を少し落とし、トボトボと近づいて来る老人が私の横で止まった。

「- - -」老人は口ごもり、もどかしくしている。  
私に何か言いたげな老人の動作が何故か気になった。

私が再び赤いバラの撮影を始めると

「向こうに綺麗な黄色いバラが咲いている。黄色いバラを見に5日間通っている」とぼつりと私に言った。

老人は目先の燃えるような赤いバラに目もくれず、黄色いバラを私に熱心に薦めてくれている。  
老人に情熱を与え続けている黄色いバラを見たくなった。



そのバラはバラ園の中程に位置し、黄色い群をなしていた。  
黄色いバラは大木の日陰で、木々の葉の緑を背景に気高さを放っている。  
「深みのある黄色ですね」と私は老人に言った。老人は少し笑った。  
花の名札にアメリカの名優ヘンリー・フォンダと同名が付けられていた。  
私は昔親父に連れて行って貰った洋画に出て来る タフなガンマンを連想した。  
私はその黄色いバラの撮影に夢中になっているといつの間にか老人はいなくなっていた。

まもなく老人は2人の若い女性を連れて来た。  
そして私の時より分かり易くとぼつりぼつり説明をしている。  
余程このバラに魅了され、他人に紹介したいのだろう。  
その若い女性達は私と同じように黄色いバラの深みに感嘆している。  
しかし説明し終わった老人は寡黙である。  
「- - -」無骨な老人は口ごもり、女性の感嘆する声を背に行ってしまった。  
私は名優ヘンリーフォンダーの演じるガンマンが 助けた女性の声を背に去って行くシーンを想像した。

私は他のバラの写真も撮りたかったのでその場から移動した。  
帰宅後、期待していたプリントの出来映えは黄色の深みが出ていなかった。  
老人の心を魅了し、幾人にも紹介させる情熱の源である、あの深みのある黄色ではなかった。



その後、私も4回植物園に通い、ヘンリー・フォンダーの深みある黄色の虜になった。  
老人の情熱も冷めず、毎回来訪して見学者に声をかけヘンリー・フォンダーを紹介している。

その日の夕方、年輩のご婦人2人を連れて来た時のこと  
黄色いバラとヘンリー・フォンダの名札を見た婦人が言った。

「洋画“黄色いリボン”の騎兵隊のネッカチーフの色みたい」  
もう1人の婦人も「あの映画2回見たわ」と若い頃を懐かしんだ。

「儂は4～5回見ている」と老人も答えた。

「映画好きなんですね」と婦人が質問した。

寡黙な老人は微笑みで答える。

ご婦人は「“黄色いリボン”のヘンリー・フォンダは素敵でしたね」と言った。

「“黄色いリボン”はジョン・ウェイン」と老人は答えた。

彼女たちと会話が弾んでいる。

老人は自分の世界の黄色いバラを理解してくれる人をやっと見つけたようだ。

植物園の閉門時間をしらせる放送が聞こえてきた。

バラのヘンリー・フォンダーも幾分か精細が無くなっている。

天気予報では明日から雨との事、もうあの老人とも会えないかも知れない。

私はきれいな夕焼けを背に拳銃の代わりにカメラを左手に下げ、心はガンマンになっていた。

———お終い———

”ブクログ”で多重露出撮影のマニュアル（無料）を掲載中です。

本題は「コスモスの多重露出撮影」です。

多重露出撮影に興味のある方は是非お立ち寄りください。

「みのすけ」で検索し出版社名は「パブー」です。

## ヘンリーフォンダーとバラ

<http://p.booklog.jp/book/59507>

著者：みのすけ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/minosuke7/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/59507>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/59507>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ